

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690900200		
法人名	日本ケアシステム株式会社		
事業所名	グループホームよこび伏見		
所在地	京都市伏見区向島二ノ丸町32番地		
自己評価作成日	平成28年4月27日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2690900200-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 あい・ライフサポートシステムズ		
所在地	京都府京都市北区紫野上門前町21		
訪問調査日	平成28年6月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

① 「おもてなし」の心と笑顔で、利用者様と接する介護を心掛けている。
② 利用者様一人一人の人格と意欲を尊重する介護を心掛けている。
③ 地元の農家の方から仕入れた米や野菜を使い、栄養のバランスを考えた食事の提供。
④ 常に清掃が行き届いた清潔感のある施設の保持。
⑤ 体操・散歩・書道や絵画・ゲームなど、利用者様にとって飽きのこないレクリエーションの実施。
⑥ 地域との関わりを施設運営に取り組みこと。社会福祉協議会や民生委員が施設行事に常に参加。
⑦ パーソン・センタード・ケアの観点に立ったケアプランの作成と、日常の介護への反映。
⑧ 認知症ケアに関する外部研修への積極的な参加、社内研修会による認知症介護の質の向上。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は近隣の大学が主催する「若年性認知症カフェ」や学区社協主催の「すこやか学級」への協力依頼があり、「地域の福祉に貢献」という事業所の理念の実践に努めています。年3回広報誌を発行、事業所の取組みを地域に発信すると共に、お祭りや地蔵盆では場所を提供し、地域の子供たちとの交流も大切にしています。又、管理者は地域のグループホームや小規模多機能施設との交流を深める目的で、連絡協議会を発足し、情報の交換や共有、研修会開催の企画などを行っています。「社会の一員として社会の動きを知ることは大切」という職員からの発案で、新聞を毎日入居者と共に読み、広告を見てはスーパーに買い物に出かけています。毎週書道を楽しんだり、ミシンを使って作品作りを行うなど趣味の継続を支援することで、更に生活を活性化し、潤いのある日常生活が送れるよう日々努力しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット会議、全体職員会議において、事業所理念を確認できる	「笑顔が一番」という理念を各階入り口に掲げると共に、毎月理念に則った目標を職員一人ひとりが作成し、職員の顔写真と共に掲示しています。入り口に掲示することで、出勤時に理念の確認と共有を図り、実践につなげています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の民生委員の方が、レク活動としての書道教室の先生として毎週来ています。向島南社会福祉協議会の方々も、来設される時には利用者様と触れ合っていたいただいています。	地蔵盆に場所を提供することで入居者と一緒に花火を楽しみ、秋祭りには神輿が事業所に立ち寄ることで、地域の方と共に祭りを満喫されています。学区社協からは地域行事のお誘いがあるなど、地域交流を深めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	各種行事にボランティア参加して下さった方々と、利用者様のご家族の体験談などを話す機会を設けて、認知症について学ぶ場を持っています。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員や社協の方だけではなく、向島地区のグループホームの長を招いて情報交換も行っています。また自治会の方にも来ていただくようにしました。	2か月に1回開催する運営推進会議には民生委員、学区社協、家族、地域包括、近隣のグループホームのケアマネジャーが参加、広報誌や行事写真を配布することで事業所の取り組みを発信し、情報を共有することで意見交換が行われています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の開催報告書(議事録)は必ず持参し、「よここび新聞」も添付しています。	運営推進会議議事録と共に広報誌を行政の窓口を持参し、顔の見える関係性を構築しています。行政主催の連絡会には進んで参加し、良好な関係が築けるよう努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様の安全を考え一時的かつ切迫性があり、他に方法ない場合の身体拘束は、ご家族の同意を頂戴し実践しています。アセスメントの実施で必要なくなれば、直ちに身体拘束しないケアに移行しています。	マニュアルが策定されており、年間の研修計画に組み込まれ、職員研修が実施されています。「尊厳を大事にする」という理念をふまえ、職員が上下関係を持たないことで、お互いを注意しあう体制が整っています。特に言葉かけに配慮がなされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ユニット会議、全体職員会議において、本テーマについては、相互チェックの場を設けています。言葉づかいに関しても会議で話し合っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は向島地区の連絡会議で研修を受けていますが、職員全体への啓蒙はまだ不足していると考えています。成年後見制度については、新聞のスクラップで勉強会をしました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約並びに重要事項説明書に基づく内容の説明は、施設長がご家族(身元引受人)に、場合によっては利用者様も同席の上、行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	当施設では、土曜日・日曜日の利用者様の家族の面会が多く、ユニットリーダーや居室担当が積極的にご家族とコミュニケーションをとっています。また毎月ご家族へ手紙(写真同封)を出しています。	家族の面会が多いことで都度意見を聞き取り、介護計画の更新時には、家族に手紙で要望を確認しています。毎月の行事を事前に教えてほしいとの要望があり、毎月の手紙に次月の行事予定を記載しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	昨年までは、施設長が各職員との個人面談を実施していましたが、今年からはユニットリーダー以上の役職者が積極的に職員との話し合う機会を持っています。	「自己評価シート」をもとに年2回面談を実施し、毎月の会議でも率直な意見が聞き取れる体制を取っています。食事検討会の要望や社会の動向を知ることも大切と、地方新聞を毎日入居者と共に読む習慣を作るなど、職員の意見を積極的に運営に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の処遇改善のためにキャリアパス制度を確立し、「自己評価」「個人面接」「人事考課」を実施しています。時期は7月と12月です。またレポート試験や筆記試験も実施しました。併せて資格取得奨励金制度も実施しました。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社外研修は、「認知症介護実践者研修」への参加をしています。社内研修ではその研修を受講した職員が研修で学んだことをフィードバックする取り組みを実施しました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	仮称)向島地区地域密着型サービス事業所連絡会うい設立し、同地区内での5つの事業がよるこび伏見に参集し、情報交換の場を持ちました。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の段階で利用者様本人との面会を実施しています。その時に出来るだけ会話をするようにして、ご本人の思いを聞き、入所の際の介護に反映させています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込段階で、ご家族との面会を実施し、要望などを聞くようにしています。新規受け入れの検討会議を開催し、入所日にはケアプランが出来ている状態で契約と合わせて家族さんにプランの説明をしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは、施設の住環境に慣れていただく事と職員との関係構築を第一にしています。慣れてくると、体操や散歩など病院などに居た時には出来なかったことを、ここで出来るように試みています。(排泄や歩行など)		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護の基本的方針として、当施設を利用者様の「家」と思って過ごしていただけるよう心掛けています。食事に関することや、清掃や洗濯に関して利用者様と職員が一緒にやるようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の状態や暮らしぶりについて、毎月担当職員からご家族への「お手紙」にて近況報告を行っています。それを聞いたご家族からの、意見や感想をもとに、日頃の介護に生かすようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様宛のハガキや手紙は勿論のこと、時々かかってくる友人などからの電話も状況を見て、利用者さんにつなぐようにしています。	「私の姿・気持ちシート」を活用して「その人となり」が把握できるよう努めています。趣味の継続支援として、事業所でミシンを購入し手作り作品を作っていたり、又、毎週書道を楽しんでいます。家族や友人の来訪が多いことで馴染みの関係が継続されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共用部や食事の時の席の位置などに気を配りながら、利用者様同士のコミュニケーションを見守るようにしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	死亡された場合を除き、退所されたご家族との連絡を取るようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ユニット内で各利用者様の「ケアプラン」の周知度を高め、日々の記録にも反映させるようにしました。	アセスメントの様式を手書きに変更することで、入居者の思いや意向を随時言葉にして書きとめています。普段の会話の中からも「馴染みの理髪店を望んでいる」「博物館に出かけたいと思っている」など思いの把握に努め情報を共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の時に作った資料に対して、その後分かった情報について追記するようにしました。これにより各利用者様の過去の生活やなじみの関係を把握できるように少し前進しました。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	同上		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議を定期的実施するようにしました。これにより、ユニット会議における利用者様の状態把握が、課題をもって取り組めるようになりました。	介護計画の見直しを行う際は、事前に家族に手紙を出し、要望を聞き取っています。ケースカンファレンスを頻回に開催し、モニタリングを行うことでPDCAサイクルに則ったサービス提供が実施されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝と夕方の申し送りミーティングを定例化しました。日常の些細な変化も職員間で共有するよう心がけています。その積み重ねを介護計画の見直しに反映させるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	季節感のある共用部の装飾や季節ごとの地場農家の野菜をつかった料理。自治会と一体となった祭り行事の開催。違うユニットの利用者様との交流の機会も作っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	花や野菜や果物を栽培しています。また地元自治会との強い関係で、伏見区最大の祭りである「御香宮祭り」の花傘巡行が特別によるこび伏見内に来てくれます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医である小川医院の小川医院長さんが、全利用者を往診や通常検診を通じて理解してくれているので、体調に異変があった際も、すぐに相談できる体制を敷いています。	入居時に本人・家族に説明を行い、事業所の裏手にある協力医院へほとんどの方が移行されています。24時間対応が可能で、随時受診できる体制が整っています。又、かかりつけ医との連携も図っており協力体制が構築されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	今年4月から近隣のむかいじま病院訪問看護との提携を始めました。学ぶことが多々あり、職員も勉強になっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族様との協働により取り組んでいます。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期ケアに関して、開設3年目にして今一度施設方針をきちんと見直す機会と考えています。ご家族や主治医とのより密接な連携が今後必要になると認識しています。	入居時に重要事項説明書に記載された「心身状態が悪化した場合の対応について」をふまえ、本人・家族に説明を行い、意向の確認を行っています。ただし同意書など書面に残すまでには至っていませんでした。	研修は行われていますが、看取りに向けて更に医療連携体制を構築し、事業所ですることができることを本人・家族に説明を行い、随時意向を確認しながらチームとして協力体制が構築できるよう取り組まれてはいかがでしょうか。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故対応については、救急搬送も含めて社内のマニュアルを整備しています。4月の全体会議でもこのテーマについて研修会を実施しました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	27年6月に新規の消防設備の導入を実施しました。(法改正に基づく)それに伴って火災発生時の対処訓練を8月17日に実施しました。また28年4月27日には熊本大分地震発生に鑑みて、地震発生の際に対処について全体会議で周知しました。	27年度の法改正に基づき、年2回避難訓練を計画し、対処訓練と称し実施していますが、夜間想定訓練にまでは至っていません。ただし、事業所を災害時の自主避難場所として地域に提供しており、米・水・毛布などの備蓄品を整えています。	熊本の地震を教訓として、地震発生時の机上訓練が実施されています。今後消防署の協力を得て夜間想定訓練を実施し、実施記録に残されてはいかがでしょうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常から言葉かけや利用者さんへの対応は人格を尊重するよう心がけています。	「接遇」のマニュアルをもとに研修が実施されています。職員は日常的にさりげない声かけを行い、職員間で上下関係を持たないことで、気づいたことをお互いに声かけあって、改善に向けて努力しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が、自らは発することの出来ない潜在的な気持ちをくみ取るように心がけています。外食レクや散歩などの頻度も高めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「ずっと同じ場所に居る人の立場にたって考える」基本に、日々の生活が退屈なものにならないよう心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容によるヘアカットや外出しての理容(顔そり含む)を実施しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様がバランスよく栄養摂取できるよう好みに合わせる提供をしています。準備や片づけの協働については、昨年以上に実施できています。	地域の方からは毎日旬の野菜が届き、自家菜園で収穫した野菜と一緒に、献立や調理方法を考えています。「今できることをしていただく」を大切に、下ごしらえや盛り付け、片付けなどが自然と行われています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お魚の料理を増やすなど、食材の仕入れ方法を変更して栄養バランスをとっています。水分の確保も好みに応じて多種の飲料から選択できるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性について、ユニット会議で採り上げ、今まで以上に職員の意識は高まりました。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の回数やその時間を管理することにより、職員からの働きかけでトイレへの誘導を心がけています。	排泄チェック表を活用して一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげない声かけを行うことで排泄の自立に向けた支援を行っています。リハビリパンツが綿パンツに変更になったことで、家族が喜んでいるという事例があります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分補給のほか、適度な運動(体操)などにより予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前・午後にこだわらず臨機応変に入浴時間は設定しています。今後は清拭の機会を多く作り、衛生管理に努めます。	毎朝ミーティングで外出を優先にした入浴時間を検討しています。入居者の意向を尊重し午前・午後を問わずに同性介助を行い、体調を考慮して入浴方法を考えるなど、個々にそった支援を実施しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間に質の高い睡眠をとっていただけるよう、日中の過ごし方について充実させるよう努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	27年7月9日の全体会議で、各利用者様が服用している薬について勉強会を実施しました。日常の業務においては主治医と相談しながら適切な服用についての意識をもって取り組んでいます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	画一的なレクリエーションの実施にとどまらないよう支援しています。新聞の購読や折り込みチラシを見ることで社会から隔絶された感がないような取り組みも始めました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日用品の買い物や、自分で食べたいと思うものを買物しようというレクを実施しました。徒歩に限らず車で外出の機会も増やしました。	入居者の希望で花屋に季節の花を見に出かけたり、近隣の桜並木を散歩したり、買い物に出かけるなど、できるだけ毎日戸外に出かけられるよう支援しています。家族の面会も多く、家族と共に外食や外出も楽しんでます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段は施設側で管理していますが、買い物でお出かけの際はお小遣いを使える機会を作っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	書道教室で家族などに出す年賀状を書いてみる試みを実施しました。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	月ごとのアルバムの展示や、好きな芸能人のポスターを貼るなど快適な空間づくりを心掛けています。	事業所内は掃除が行き届き、清潔感があふれています。入居者の作品が華美にならない程度にさりげなく飾られ、居室とリビングが行き来しやすく、個々の思いでゆっくりと過ごせるよう配慮されています。ベランダの菜園でティータイムを楽しむこともあります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	マッサージチェアの活用やバルコニーでの園芸など、和む場所を作るよう努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の協力で、家の中にいるように感じていただけるようにしています。	家族が持ち込んだ家具の上には、アルバムや家族写真、手作りのフランス人形、毎週訪問時に持参される季節の生花がさりげなく飾られており、自宅のような心地よい設えとなっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員の見守りの中で、利用者様の出来ることは、極力実施できるよう配慮しています。		